

(別紙の2)

自己評価及び外部評価票

※「自己評価の実施状況(太枠囲み部分)」に記入をお願いします。[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	「共生・協働・感謝」の理念をホームに掲示し、新人教育から理念に基づいた実践ケアができるように、指導、育成をおこなっている。	○理念は、誰にでもわかりやすく簡潔で、地域密着型サービスの意義や役割を汲み取れる内容で、管理者とスタッフは、周知共有の意識づけの話し合いを定期的に行い、実践に努めています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域の敬老会、お祭りなどの行事に参加して、良好なお付き合いをしていたが、コロナ感染によりR2年度は交流の機会が減った。	○コロナ禍で現在は、地域交流行事は制限しているとのことですが、近隣地域の皆さんからは、野菜やリンゴ等が届けられ、特に頂いた野沢菜や柿は利用者と一緒に漬物作りや干し柿作りをして楽しんでいることを伺いました。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	年に6回の地域連絡会を通じて、当事業所の近況報告、地域の情報を共有している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、その意見をサービス向上に活かしている。	行政、区長、民生委員、警察等の出席者による運営推進会議を定期的開催し取り組みについて報告し、地域の困り事や、ホームの課題を共有し相互協力を模索している。	○運営推進会議は、今年度はコロナ感染対策をとりながら、7月と10月に開催し、その後は中止にしたが、コロナ禍での運営状況や利用者の生活の様子等の資料を推進委員に送付する等、関係性を大事にする取り組みが伺えました。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力を築くように取り組んでいる。	コロナ禍により、地域とは電話や個別訪問での連携になっているが、市の担当者とは定期的に連絡を取りホームの状況や制度の相談等を行っている。	○市の担当課から認定調査等で定期的に訪問があり、事業所からも日常的に報告・相談し、制度改定等の情報共有もあり、また、包括支援センターとも利用者動向についての情報交換ができる仕組みが定着しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	職員による見守りや連携を行い、利用者の心身状態を把握しながら安全面に配慮している。可能な限り自由な暮らしを支援しているが、夜間の玄関施錠はしている。	○管理者やスタッフ全員が身体拘束の内容と弊害を定期的な研修会を通して、共通認識できていました。マニュアルに基づいて、「身体拘束をしないケア」に努めていることをマニュアルやインタビューで確認できました。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	OJTにて虐待について年に研修計画を立て、開催している。また、虐待の概念をしっかり共有し、利用者の権利や心身が阻害されないよう、常にケア方法を見直している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	年に1回、弁護士の先生に講義頂き、権利擁護についての学習をおこなっている。また、利用者のs成年後見人とも適宜話し合いを設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約締結、解約時は、最低2名以上のご家族に契約内容等の説明をしている。また、改定時には家族会の際に説明をおこない、承認を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	コロナが流行する前は家族会を年4回開催しながら、他の家族とも交流していた。現在は電話等で家族の方と話をし意見や想いを聞き、日々の関わりに役立っている。またケアプランの説明時に、家族の意見や要望を聞く場面を設けている。	○家族等の意見や思いを大切にしている取り組みが、年4回の家族会開催として表れています。今年度は、コロナ禍で家族会を開催することが困難とのことですが、利用者一人ひとりの状況を電話や「便り」等でこまめに報告していることを伺いました。	○事業所の職員の異動について、家族調査結果では、特に年度途中の異動の報告がされていないとのことでしたので、「便り」や家族会等での報告、配慮を期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員会議を開き、職員全員が意見・要望を出す機会がある。労使委員の体制も整え、労働環境の改善や、働き方の意見交換をしている。現在はオンライン会議にてボトムアップを図っている。	○事業所の運営や大事な決定事項については、毎月2回のスタッフ全体会議で職員の意見を十分に聞き、事業運営に反映させる仕組みがあり、また、人事考課の目標管理により、職員の個別面談で意見や要望を把握しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	年に2回、職能評価をおこない、職員各自が自己目標に向けた取り組みを確認する。代表者や責任者と上記について面談をおこなっている。職場環境改善については労使委員会を開催し、検討、承認を行う。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	新人、初級、中堅、責任者へのOJTの開催。日々の業務の中で、表出した個人課題については随時、責任者と共にスキルアップの為の育成を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	職能団体主催の研修や、集まり等に参加させている。現在はコロナにより、交流機会がない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	初回のアセスメントから、入居に至る過程で、キーパーソンとなるスタッフが事前訪問等で関係性を構築している。その中で知り得たニーズや想いをプランに入れ込み提供している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	家族も同様に入居に至る過程で、キーパーソンとなるスタッフが事前訪問等で関係性を構築している。その中で知り得たニーズや想いをプランに入れ込み提供している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	初回のケアプランを事前にご家族に確認いただき、本人と家族のニーズに合致しているか確認している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	家事等で利用者の方がスキルがある場面では職員が指導を受け、一緒に料理をしたりしている。また、献立や行事等の企画に利用者も参加してもらい意見を取り込んで実施している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	面会や行事への参加を積極的に促し、利用者を支える一員としてご家族と協力態勢を作っている。現在は、コロナ禍にて行事・面会機会を制限している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	電話で話したり、外出希望時にはご家族と連絡しながら実施できるよう配慮している。 *コロナ流行期には、自粛している。	○利用者一人ひとりが、これまで培ってきた人間関係や社会との関係を把握し、その関係をできるだけ継続できるように、コロナ禍においても、家族や知人、友人等に来所していただき、屋外やテラス等で面会できる配慮が伺えました。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者同士の関わり(家事・余暇活動等)のきっかけをスタッフが作り、相互協力、相互理解を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	年賀状や、HPのブログで事業所の近況をお伝えし、関係性を維持している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常生活の中、利用者との会話や行動などを通じ、その人のニーズを受け取り、支援に反映している。スタッフのケア姿勢として、利用者本位の想いを想像できるように指導、実践に向けている。	○利用者一人ひとりが、その人らしい暮らしが続けられるように、利用開始時やその後も意向や希望を利用者と話し合う機会を設け、特に認知症の利用者には、丁寧に思いを聞いて、スタッフ全員が共有する仕組みがあります。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時から生活に慣れるまで、様々な場面で職員が利用者の暮らし方や生活歴を聞き取りしている。聞き取りから得た情報やニーズは職員間で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	認知症の進行に伴い、過ごし方、心身状態も変化するので、日々、職員は小さな変化にも注視するように心がけている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	全職員がアセスメントに関わり、カンファレンスを実施して短期目標、サービス内容を作成している。ご家族、関係者には、電話やメールにて意見を伺っている。	○利用開始前にケアマネジャーが、本人や家族の意向を聴き取り、3カ月後のモニタリングで全スタッフの意見を反映して、介護計画を策定する仕組みになっています。また、計画は、本人や家族の同意確認があることを介護計画書で確認しました。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の様子をケース記録に書き込む際、気づきや出来事を詳細に記入するように努めている。そこから得たニーズや変化に対応したプランニングを行い、ケアの提供に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	同敷地だが、別の事業所に入居中の夫妻に対し、自由な面会、食事や散歩等のマッチングを柔軟におこなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域行事の共同開催、参加は年に数回あるが、今年度はコロナ禍により協働場面がほとんどなかった。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	受診内容、薬についての説明等家族のお知らせの中に記載し、情報提供している。又必要に応じてご家族に受診の同行をお願いしている。	○利用開始時に、重要事項説明書で事業所の協力医療機関も案内し、これまでのかかりつけ医と合わせて、本人、家族の選択決定を尊重する仕組みになっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	訪問看護、主治医と連携し、身体的な不調や疾病予防等の取り組みを随時おこなっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先がほぼ一本化しているので、利用者情報や疾患情報など共有するものは随時できている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	24年度より協力医・訪問看護協力のもと、看取り支援を行っている。利用者や家族の意向に沿ったターミナルケアを実施している	○終末期ケア支援については、利用開始時に家族に説明し、利用者の状態がいよいよとなった際には、再度家族と話し合い、意向に沿って、主治医と訪問看護師、スタッフの連携のもとで適切なターミナルケアに努めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	利用者の不調を見逃さない為に、バイタルサインのチェックや、転倒等の事故対応術をOJTで訓練している。火災や地震等の避難、対応も同様におこなっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	R2年度の地域防災訓練は中止の為、不参加。事業所の自動火災報知設備にて災害時の地域協力態勢を築けている。同敷地内に防災倉庫を設置している。	○防災対策については、地元自治会との応援協力体制があり、近隣住民との非常連絡システムが構築され、また、消防署の立ち合いで避難訓練が計画にもとづいて、適切に実施されています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	「～らしさ」を重点に、その方の人生や生き方、営み方をご家族にもご協力を得ながら知り、尊厳を守った関わり方、コミュニケーションをしている。	○サービスの標準的実施方法のマニュアルには、プライバシー確保の留意事項が明示されていました。	○利用者一人ひとりの尊厳・誇りを尊重し、プライバシー保護を徹底することは、事業所の基本的必須事項です。パート職員も含めて全職員の周知徹底に今後もさらに努めることをお願いします。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	「○○したい。」思いを引き出せるような声掛け、モチベーション作りに配慮している。なるべく1つの物を提供するのではなく、選択してもらうことを重視している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	食事や入浴時間等、その日の利用者の希望を聞き、ゆとりある時間に変更している。利用者の希望で、その日の活動(散歩やおやつ等)を決める日もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	毛染めや化粧など、希望があれば提供している。帽子やスカーフ等、おしゃれな装いをお手伝いしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事準備から盛り付け、片付けとすべての工程に利用者に関わりながら行っている。旬な野菜が届くと献立メニューを変更して提供している。	○食事一連の作業をできるだけ利用者と一緒にスタッフがを行い、一緒に楽しく食事を味わうスタイルが伺え、また、食事作りを一緒に行うことで、他の利用者や職員との良好な関係作りもできています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	毎回の食事量、水分摂取量を記録し、栄養、水分不足にならないよう注意している。食事形態や水分の種類を変えて摂取してもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	食事後の口腔ケアを実施している。義歯の洗浄も毎晩おこなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	利用者全員の排便チェック表を作成して把握している。排泄の自立を意識しながらトイレ誘導を行っている。立位が困難な場合でも本人に自力排泄の思いがあるときは、2人介助にて行っている。	○オムツやポータブルトイレの使用は、体調不良時等の一時的使用に限定し、できるだけトイレで行うように自立支援に努めていることが伺えます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	乳製品の提供。食物繊維を取り入れた食事の提供をおこなっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	1日に利用者2～3人が職員マンツーマンで関わるの時間を大切に行っている。特にコロナ禍ではゆず湯、入浴剤など用いて季節の香りを楽しめるよう工夫している	○入浴は基本週2日午後の時間帯で実施していますが、利用者一人ひとりの状態や希望等で入浴日時にも柔軟に対応し、また、個浴で利用者とスタッフがゆっくりとくつろいで入浴を楽しんでいることが伺えます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	就寝時の明るさや室温、寝具の種類、枚数を利用者ごとに調整している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	利用者ごとの薬の把握をおこなっている。誤薬防止の為に、職員2名での氏名チェック、服薬まで職員が見守る等の実践をしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	アウトドア、インドアの嗜好を重視し散歩や畑作業、縫物や収穫物の仕込み等、支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナ禍前は、散歩、ドライブ、買い物など希望に沿って外出していたが、感染予防の観点から事業所敷地内、または車内のみでのドライブを実施。	○外出等は、コロナ禍で現在は制限していますが、事業所の近隣に広い公園があり、散歩コースとして日常的に利用しているとのことでした。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	嗜好品や生活用品を買いに行く際は本人のお金を所持して使えるように支援している。しかし、コロナ禍にて今年度は外出場面がほとんどなかった。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	手紙、電話でのやり取りの支援をしている。ADLが低下しても職員が代筆したり、電話をかけたり支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節の花を飾ったり、過ごしていても不快にならないように環境整備に取り組んでいる。夏場は庭の畑で野菜の栽培を通じて季節を感じていただいた。設備面では吹き抜けの構造になっており、自然光も多く入っている。	○建物設備は新しく、ダイニング、リビングは、採光が良く明るく、木材の香りと温かさが十分に感じられ、訪問時の利用者さんの笑顔と「幸せだよ」とのお声が印象的でした。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ソファを配置したり、施設中央にある畳の部屋にて、思い思いに過ごせる環境を提供している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	本人や家族と相談して利用者が居心地よく過ごせるように家具の配置や思い出の品物を飾るなど、環境作りをしている。	○居室は、全て個室で窓は外側に面して採光が良く、一人ひとりの馴染みのものが活かされ、居心地がよさそうな環境が伺えました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	利用者の身長に合わせた、洗面台、キッチンで、自身の好きなタイミングで洗面をしたり、洗い物をしたりしている。施設内の扉が引き戸になっており、ドアの開閉時の前後転倒のリスクを減らしている。		